

■徳川秀忠(台徳院)とくがわひでただ安土教会許可1579＝

石山合戦終・1580＝ 1歳：

本能寺の変・1582＝ 3歳：

賤ヶ岳の戦・1583＝ 4歳：

秀吉太政大臣1586＝ 7歳：

刀狩海賊取締1588＝ 9歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1589＝10歳：

秀吉全国統一1590＝11歳：

土農工商公布1591＝12歳：

文禄の役・ ・ 1592＝13歳：

関白秀次事件1595＝16歳：

慶長の役・ ・ 1597＝18歳：

豊臣秀吉没・1598＝19歳：

関ヶ原の戦・1600＝21歳：

阿国歌舞伎始1603＝24歳：

徳川家康隠居1605＝26歳：

江戸城完成・1606＝27歳：

家康駿府退隠1607＝28歳：

島津琉球支配1609＝30歳：

山田長政渡航1611＝32歳：

大坂冬の陣・1614＝35歳：

大坂夏の陣・1615＝36歳：

徳川家康没・1616＝37歳：

吉原遊郭始・1617＝39歳：

菱垣廻船始・1619＝41歳：

支倉常長帰国1620＝42歳：

徳川家光将軍1623＝44歳：

イパニョ断交・1624＝45歳：

人身売買禁止1626＝47歳：

紫衣勅許無効1627＝48歳：

紫衣事件・ ・ 1629＝50歳：

糸割符拡大・1631＝52歳：

徳川秀忠没・1632＝53歳：

江戸幕府2代将軍。父家康から子家光へ、二元政治で完璧に繋ぎ、幕藩体制の基礎を確立。

浜松城で、側室西郷氏が愛を母に、\_徳川家康の三男に生まれる。幼名長丸。この年、信長の命で長兄信康が自害、次兄秀康が羽柴(豊臣)秀吉の養子となったので、おのずと世子の地位につく。

続いて於愛の方に家康の四男忠吉が誕生。

於愛の方が病弱だったためか、本多正信すら舌を巻くほど敬愛された乳母大姥の局に育てられ、

家康の隣に坐って諸臣の拝賀を受ける。

父家康が豊臣秀吉に臣従することになって、

実母於愛の方が死去。

聚楽第で元服、秀吉の偏諱を受けて秀忠と名のり、従四位下侍従、秀吉は織田信雄の女を養女として秀忠にめあわせ、自らの甲冑を着せるなど破格の厚遇。

正四位下左近衛少将、ついで参議、右近衛中将、

従三位権中納言と昇進、在京時以外は主として江戸城にあって、政務に奔走する父家康の留守を支えた。

再び秀吉の意志により、浅井長政の三女と結婚、

長女千姫をもうけ、以後、次々子が生まれるほど仲良く、また恐妻家で生涯側室を持たず。

秀吉の死に先立ち秀吉の子秀頼と千姫の婚約が成立、秀忠の政治的地位は重みを増した。

関ヶ原の戦に西上したが、信州上田城の真田昌幸に遮られて決戦にまにあわず、家康の叱責を受けた。

家康が征夷大将军となり、千姫が入興、秀忠は正二位内大臣。

\*家康の譲位で2代将軍を継ぎ、その指示で大行列を率いて上洛し、二条城で就任の儀、正二位内大臣。

朝廷で淫行大スキャンダル猪熊事件が起こり、家康が介入するも秀忠はカヤの外。

駿府城に移った大御所家康との二元政治のもと、東国を中心とした大名の統率に当たる。

家康の進めてきた朝鮮との和平復興がようやく己酉条約で実現し、

北条氏旧臣の娘と生涯一度の浮気で幸松誕生し、武田信玄の娘見性院が養育、保科正光の養子となる。

この間、朝廷との融和とともに監視を図ろうとする家康の意向を汲んで、娘和子入内の筋書きを仕組み、

大坂冬の陣では主戦論に転じて奮迅し家康の信頼を獲得、

\*春日局の家康直訴で妻が偏愛する三男国松(秀長)でなく、次男竹千代(家光)が将軍継嗣とされると、以後家光を守り立てることに努め、

家康が死去、天海の意見を入れて東照大権現の神号を贈り、日光東照宮造営に着手する一方、

改易処分権を活用して危険分子を次々処分し、禁外交権など諸権利を将軍のもとに吸収、教令の強化と海外貿易の統制を図り、初めて大名領知宛行状を発するなど、独自の政治を実施する。

初の朝鮮通信使が来日。

紀伊徳川家を興し、御三家が確立。

後水尾天皇のもとへの娘和子入内がようやく実現。日光山神領として二千石寄進。

\*家光に将軍を譲り、以後、江戸城西丸にて大御所として後見、

家光とともに諸大名を従え上洛し、“黄金の二条行幸”を演出。従一位太政大臣、

紫衣法度で朝廷介入を強行、

事件となって、後水尾天皇が憤懣譲位するに至る。

\*不治の病に罹り、

没した。

父家康同様胃癌だったようだ。偉大な父と嫉妬深い正室によるストレスが原因と思われるが、徳川将軍権力の強化に果たした役割は大きい。